2025年1月19日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

神の憐みの大きさを知れ

［マタイによる福音書5章43～48節］

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ4:43～48）。

[1]　人を裁くフィルターを持ち私たち

　マタイによる福音書5章から7章は、主イエス・キリストの「山上の説教」とよく言われる有名な箇所です。

　今日は5章の中からですが、初めは「貧しい人々は幸いである」から始まる「幸い」についての言葉があり、それに続いて「あなたがたは、地の塩・世の光である」という言葉が続きます。その後、聖書の小見出しを拾うと、「律法について」「腹を立ててはならない」「姦淫してはならない」「離縁してはならない」「誓ってはならない」「復讐してはならない」となっています。人の生き方の中でも、あまり表面に出したくない事柄と言いましょうか、それだけにそのことで人知れず悩んだりするような事柄についてイエス様は真正面から切り込んできていると言っていいように思います。そして、今日の所は「復讐せず、悪人に手向かうな」という言葉に続いて、究極的とも言って良い言葉が出て来る所です。それは「あなたの敵を愛せよ」というイエス・キリストの言葉です。こういう言葉を聞くと、「とてもそういう風には生きられない」と一笑してしまう私たちであるかもしれませんね。しかし、イエス様は、そのようにこの言葉を一笑してすぐ脇に置いてしまう私たちであることを十分承知の上で、それでも「敵を愛しなさい」と言っていると思います。

　それは、これまでイエス・キリストが語られた事の延長線上にあると思います。それはどういうことかと言うと、「人は、自分自身を中心にしか物事を考えられない存在」だということではないでしょうか？自分自身という「尺」でしか周りのものや人を見ることが出来ないから、すぐ腹を立てたり、この人を自分のものにしたいと欲情を抱いたり、自分が傷つけられたと思うと復讐の気持ちが膨らんできたりする。イエス様という方は、心の内側を見抜くリアリストです。決して理想主義者ではありません。しかし、このようなことを言われるということは、人間の可能性も信じているからだと思います。私たちは誰かを断罪して終わりにしたり、諦めて終わりにしてしまいがちですが、イエス様は、諦めないのです。実はこの「山上の説教」の後半のマタイ7章のはじめには「人を裁くな」という言葉もありますけれども、結局私たちは、自分自身を絶対化し、他者を裁くフィルターをいつもどこかで持っているということではないか、それが私たち人間同士を生きづらくさせていくことなのだ、と言われているような気がするのです。

[2] 「太陽」と「雨」を考えてみよ

「汝の敵を愛せよ」（文語訳）という言葉は、そのような自分自身を、外の広い世界へと引っ張り出してくれる言葉だと思います。43節以下をもう一度お読みします。「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである」。

　ここには、旧約聖書の律法の言葉が引用されています。『隣人を愛し、敵を憎め』。レビ記にある言葉です。『隣人を愛し』は良いのですが、『敵を憎め』とも言っている。イエス様は、旧約聖書の戒めにおいてまだ取り除かれていない垣根―私たちの中にこびり付いてしまっている自分可愛さや自己中心性―から、人間を自由にする、解放させるためにやってこられました。イエス様は5章17節で「わたしが来たのは、律法や預言者を廃止するためにではなく、完成するためである」とおっしゃっています。律法が完成しないと、人間のこの世は、裁き合いの連鎖が絶え間なく続く世になっていってしまうのです。そして、実際、そうではないでしょうか？

　ではそこから解放する、というのはどういうことでしょうか？イエス様は、びっくりするくらい単純なことをおっしゃっています。それは「太陽」と「雨」を考えてみよ、ということです。自分だけを見つめていた視点を、内側ではなく、外へ、そして上へと向けさせます。「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」　私たち人間は、自分の尺度・ものさしで人を測ります。正義心から、人を許せなくなることがあります。「あいつは許せない」。確かにそのように思うこと、色々あります。世界の事でも身近なことでも。でも、どうなのでしょう？私たちの最終ゴールは「あいつは許せない」で良いのでしょうか？イエス様は私たちのそういう思いを知りつつ言われます。「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」。天の父は、人の目から見た悪人も善人も、変わらずに憐れんで下さっているということですね。悪人・善人というレッテルを貼るのは人間。天の父にとって、そんな区別はない。そんな区別を持って神様は自然や天気を支配しません。皆同じように暑い日々を経験するし、皆等しく寒い時期を経験する。そして陽だまりを与えて優しく包み、雨を降らせて潤し、この大地も、心の中も、カラッカラにならないように癒して下さる。お天気はまるで、私たちを生かす人格のようです。いや、天の神様がそこで働かれているから、私たちは、日の光、また自然の潤いの中に、神様の、私たちを分け隔てなく生かそうとするみ思いを感じることが出来ます。だから分かるでしょう、と。天の父は、人間が、どんな存在であろうとも、滅びゆくことを望んでおられないということを。ですから、あなたがたは「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」（5:44）。あなたに敵対する者、貶める者、迫害する者はいるでしょう。これからも出て来るかもしれない。しかし、その人が滅びることではなく、その人の救いを祈りなさい。神様ご自身がその人を憐れんでいる。あなたも神から生まれた神の子なのだから、神様の思い、祈りについてきなさい。祈ること、それがあなたに出来る最高のことだと私たちを励ましていると思います。

　「祈る」ということは、バカになることです。そうではないでしょうか？自分の正しさ、自分の正義を握り締めている内はなかなか祈れないと思います。「許せない」という思いを自分の支えにしている間は。しかし、その握り締めている拳骨を開いてくれる太陽があります、雨があります。この私をまるごと包んでくれるイエス・キリストの愛があるのです！イエス様は、最高にバカなことをして下さったではないですか。あの十字架。他者を裁き、いや、神様にさえ唾を吐く私たちのために、主は「父よ、彼らを赦して下さい。何をしているのかわからないのです」（ルカ23:34）と、執成し、祈りながら、死んでいったお方です。神様から見たら、善人も悪人も関係ないのです。みんな滅びてはならない‟神の子”とみなして下さっている。ご自分が死ぬほどの愛を持って！こんなお人好しはいません。私たちは皆、こんな想像を絶する利他の心を持つ方、憐みに満ちたお方によって今日も生かされています。100％その愛を受けて前に進んで行きたいと思います。

　「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（5:44）。100％の愛が、私たちを生かす時、私たちは、自分では出来ないことをさせて頂けるのだ、そう信じて良いのではないでしょうか？「裁く心」から自由にされること、それが」「完全」ということかもしれません。

[3] それでも、なお受容できますか？

私は、教会という所もそうなのだなと思いました。とかく教会という所は裁き合いが起こりやすいと思います。もしかしたら小さい群れの方がその傷が大きくなることがあるように思います。そして教会では牧師が一番危ないと思います。「裁く心」を持ちやすい自分、その危険性を感じています。そして、お互い同士の事でもあると思います。果たしてどんなことがあっても「受容する」ということを、イエス・キリストに倣ってやっていけるかどうか。…例えば変な話ですが、私が大金を着服してしまったとか、私がこの年で不倫をして妻を裏切るとか、人にとんでもない暴力を振るってしまったとしたら、皆さんはどうされるでしょうか？もちろん本人は、牧師は続けられないと言うでしょう。当然ですね。その上でです。なお私を、教会という場所で、兄弟として受容できるかどうか。皆さん、考えて下さい。そしてお互いはどうか…。キリストの赦し、ということを本当に生かすということは楽なことでなく、戦いだと思います。私たちは本当に自分で自分が分らなくなることがないでしょうか？しかし、「悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」方の憐みを知る者として。私たちはこの世界に遣わされている。この事の大きさをいつも考えて生きて行きたいと思います。お祈り致しましょう。

　神様、今日もこの主による集まりを祝福して下さり、感謝致します。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちをを愛して、その罪の贖いの供え物として御子をお遣わしになりました」。あなたの大きな憐れみをありがとうございます。こんなに大きな愛の中に生かされているのに、それをすぐに忘れてしまう私たちです。しかし、あなたは、日々、太陽を照らし、また雨を降らせ、あなたが愛の神であることを教えて下さいます。どうか、あなたのおバカとも言える愛によって、私たちの頑なな心、人を裁く心を溶かして下さい。一緒に生きる私たちの交わりをいつも聖霊によってただし、導いて下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。